

### 魚眼レンズ

メリー・クリスマス、個展の開催おめでとう、もう一つおまけに、ハッピーバースデー。一夜で三つも祝ったのは、琉大美工科講師の永津禎三さん。二十四日夜、宜野湾市大山の画廊匠(たくみ)で。



永津禎三さん

エッチングと石版画に、今回は石こうを使っ

た立体をも手かけ、おとう盛な製作欲を感じさせる。

テンペラという古い技法をもとに、抽象画を描く永津さんが、今回は「具象」にはげんだ。丹念に描いた植物には、禁欲的な感覚さえおぼえる。本人は「抽象を描いていて、ときには徹底してモノを描きたくなるものですよ」と談々。

石こうの立体は、鋳型

に流し込んでつくりあげたオブジェ。同一のものが、色の使い、彫刻刃の加え方で一つ一つ微妙な変化を見せている。作品化していく、作る側の手ごたえ、楽しみと緊張が伝わるようだ。ただし評価は二つ。「立体といってもやはり平面だ。中途

半端」「実験的作品だ、次への展開を予測させる」と、祝福を兼ねての仲間のあいさつ。

版画と鋳型の二つの技法に「ネガとポジ、二つの方向から迫り、どちらも作品化している。平面が、表と裏の双方のさ中に成立する、

### ネガとポジ双方から作品化

とということも教えてもらった」との意見も。

まじめなあいさつもあるにはあった。が、ケーキと酒が歌をまき、イブの夜はふけていった。回展は年を明けて二月二十二日まで。午後三時、三日は休廊。